

「誇り」と「驕り」

前取締役 菊地 邦彦



いつの世にも不祥事はつきものかもしれないが、昨今は著名大企業の経営破綻、製品に関する虚偽の表示や申告、巨大統合金融機関のシステムトラブル、与野党議員から官僚に蔓延する公費(私たちの税金)の私的流用、教師・警察・検察・判事による不祥事等々、まさに何でもありの様相である。社会の透明度が増したために、今までは見えなかった水面下の部分が見えるようになってきたためということであれば、その点では喜ぶべきことであるが、そうとばかりも言ってはられないように思う。

不祥事を生む要因はいろいろである。その中でも問題なのは、その人や組織にいつのまにか生まれる「驕り」ではないだろうか。もちろん、はじめから意図的に行われる場合もあるが、当事者自身(人の場合も組織の場合も)が驕りのために気づかないうちに、あるいは気づいても「大したことではない」や「大きな目的のためにやむを得ないこと」等のような意識のもとに事態が進行する場合の方が、はるかに始末が悪いし、社会的な影響も大きいだろう。

しかし、不祥事の当事者も最初か

ら驕っていたわけではないと思う。多くの場合はむしろ使命感に燃え、大いなる誇りを持って他に抜きんできた努力をしたからこそ、それが成果をあげて世の評価を得たといってもよいのではないか。日本経済が戦後、奇跡的な復興を遂げ経済大国の評価を得たのも、強い志と誇りを持った先人たちが官民あげて復興に励んだ結果である。しかし、いつの間にかバブル経済に突入し、はじけた後は驕りはもちろん誇りまでも萎んでしまった感さえる。

こうしてみると、「誇り」と「驕り」の間にはいわく言い難い関連がありそうだ。困難な仕事を成し遂げるためには、単なる能力や努力だけでは足りない。使命を自覚し、誇りをもってことに当たることが必要不可欠である。しかし、ことを成し遂げ、高い評価を得て心地よい雰囲気に含まれたとき、往々にして“当人も知らないうちに”この誇りが驕りに変わってしまう危険がある。ちなみに英語の辞書を引いてみると、“pride”という言葉には誇りと驕りどちらの意味もある(Pride goes before a fall. 驕る者久しからず)。彼らはこの「誇り」(proper pride)と「驕り」(extreme / false pride)が同質同根のものだという感覚、そのことに対する警戒感を持っていることを窺わせるような気がして興味深い(物事を善悪でとらえる日本の感覚では、

誇りは善、驕りは悪と切り離して考えがちなのに対して)。

驕りを防ぐ手だては何だろうか? 情報公開、内部監査、外部監査等々、行き過ぎを防ぐためのチェックシステムを政治、経済、社会各面にわたって構築し、整備することがますます大事である。しかし、これらはあくまで外からの牽制である。「驕り」という心の問題への対応は、やはり最終的には当事者自身の心の抑制力を如何に涵養するかにかかっているといわざるを得ないように思う。当事者自身が驕りの恐ろしさを自覚すること、自己と周囲を率直に把握し、自制する謙虚さと勇気を持つこと等々。例えがおかしいが、美しいナショナルオーガスタや荒涼としたリンクスで、風やコースに棲むという魔物を相手に、懸命に自分をコントロールしながらプレーする名ゴルファー達の成功と失敗の光景を見ると、自制の重要さと難しさを痛感する。

当社は、「すべては分析に始まる。高い分析技術を通じて人類社会に貢献する」を経営理念に掲げている。そして30年におよぶ諸先輩のご努力により今日の姿に発展してきた。この誇りを受け継ぎ、驕りへの変異を不断に防ぎ、これからもお客様そして社会に役立つ会社としてあり続けたい。

(本年6月28日退任)



千葉事業所と愛媛事業所は、ISO 17025に基づく認定事業所で、環境分野や化学工業製品分野などにおける特定項目の認定を受けております。
千葉事業所の認定番号: JCLA1
愛媛事業所の認定番号: JCLA5

当社事業所はISO-9001およびISO14001の審査登録も受けています。

千葉・筑波事業所: JQA-1105 / OIER-171
大阪・岡山事業所: JQA-1814
愛媛事業所: JCQA-0253
大分事業所: JQA-QM3707 / JQA-EM2093

編 集 後 記

2002年は弊社設立後30年目にあたりますので、本号を30周年記念号として発行することにしました。しかし本号の企画をあれこれ考えてみましたが、あっといようなアイデアもわかず、結局、技術報告(FRONTIER REPORT)を従来の2報から6報と多くして、環境関連、電子関連、医薬関連及び工業支援にお

ける弊社の最新技術を紹介し、お客様方のお役に立てればと考えました。そのため本号では、従来のTALK ABOUT, SCAS NOW及び法律・技術ウォッチャーを割愛しました。今後もお客様の期待に応えられる技術情報の提供を心がけていく所存です。ご愛顧のほどよろしく御願致します。

編集・発行 株式会社住化分析センター 発行日 2002.7.24 2002- (通巻16号)
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-6-17 TEL06-6202-1807 FAX06-6202-0116
ホームページ <http://www.scas.co.jp> E-mail: webmaster@scas.co.jp

はアインシュタインの疑問符です。彼のあくなき好奇心と探求心こそが、宇宙真理発見の原動力だったのかも知れません。

SCAS Sumika Chemical
Analysis Service

東京営業所	TEL 03-3257-7201	大阪事業所	TEL 06-6466-5247
大阪営業所	TEL 06-6202-1000	筑波事業所	TEL 0298-64-4741
千葉営業部・千葉事業所	TEL 0438-64-2281	ファーマ事業部	TEL 06-6466-5246
岡山営業部・岡山事業所	TEL 086-477-8103	科学機器事業部	TEL 06-6202-0016
愛媛営業部・愛媛事業所	TEL 0897-32-3411	環境技術センター	TEL 0438-63-6176
大分営業部・大分事業所	TEL 097-523-1181	バイオ技術センター	TEL 06-6466-5251
SCAS SINGAPORE PTE LTD.	TEL 65-425-4477		

本誌は再生紙を使用しています